



NPO법인
삼천리철도

三千里

Vol. 28

2021年1月号

発行
NPO法人 三千里鐵道
〒441-0109
愛知県豊橋市下五井町青木31
TEL.0532-53-6999
FAX.0532-54-4931

汶山(ムンサン)から開城(ケソン)まで歩こう!

理事長 都相太

※NPO法人 三千里鐵道の発足

京義線(西海線)はソウル~新義州約500kmで、平壤を經由して中国大陸と繋がる。

汶山から開城間は、京義線(西海線)の鉄道分断区間であった。2000年6月15日発表された南北共同宣言には、その具体的内容の一つに鉄道連結がうたわれていた。

私は数人の友人に連絡をとり宣言の意を受けてすぐに”三千里鐵道”の名称で具体的行動に取り組んだ。

- ・理念葛藤を乗り越え南北を等距離にみよう。
- ・そのために非武装地帯4kmの鉄道建設に少しでも寄与する運動でなければならない。
- ・鉄道連結のための募金活動を展開しよう。

基本的な合意事項は単純明快なものでこの3点が主であった。

理念的なものがあるとすれば”和して同ぜず”で、主張が明確で多情多感な韓国・朝鮮人にとってはこれほど包容力のある至言はない。

※募金活動の展開

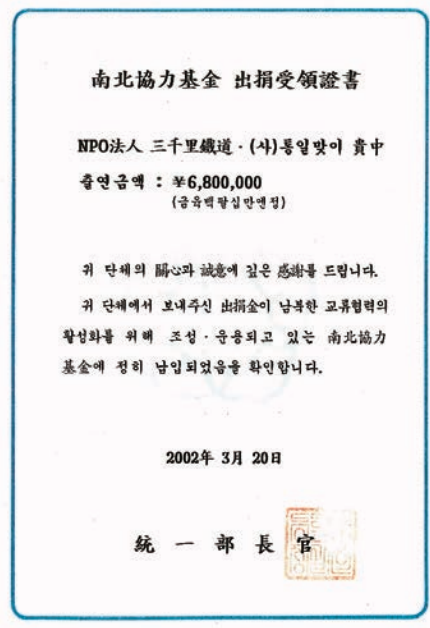
この運動は、マスコミ・インターネットの力も借り瞬間に広く伝わり、募金活動は順調に推移した。

毎月150円を何回も振り込むのは岐阜の施設にいる老人

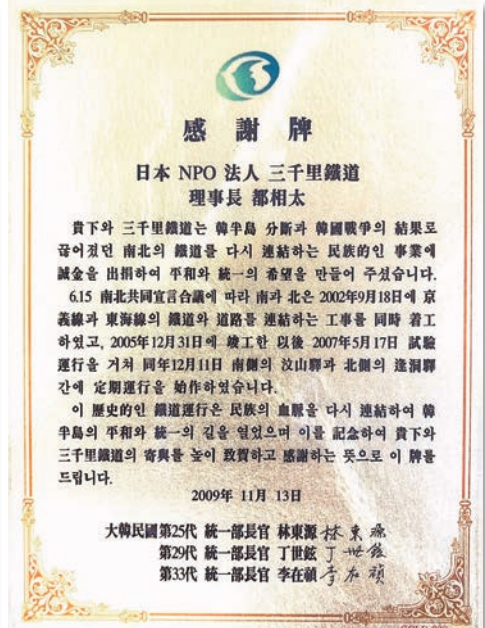
だろうか?振込費用がかかるのに申し訳ない思いであった。また、一度に200万円が振り込まれてきたこともあった。6・15宣言の具体性に共感したのか募金活動は順調に推移していった。短期間に数百万円という巨額の募金が集まり、その使途、伝達方法などが論議された。募金額を南北等分に伝達するのも一つの方法だが、もっと明確な使途を南北両政府に伝え、募金者の意図を伝えるべきとの結論になった。

※募金の伝達

韓国内では枕木運動が盛り上がっていた。枕木の寄贈は国内にまかせ、募金は線路の寄贈に使えないかと思いついた。韓国内の知人に連絡を取り線路価格を問合わせ、南北2kmの価格は680万円と算出した。



大韓民国統一部の受領書



2002年3月20日韓国統一部の丁世鉉長官に仲間とともに手渡した。幾人かの"朝鮮籍"の仲間も一緒に訪韓し、南北分断以来の故郷訪問の旅に出た。

2002年12月下旬、募金伝達のために初の平壤訪問となった。12月20日コリヨホテルの会議室で朝鮮民主主義人民共和国内閣に無事に伝達を終えた。無事に伝達任務を終えることができたのは総連愛知県本部の大変な尽力の結果であり、平壤まで随行までしていただいて感謝以外の言葉がない。

翌日、内閣担当者、随行者ともども平壤から開城に向かった。主な目的は北側鉄道分断点の視察であった。開城の市街地から南にその分断点があった。小さな鉄橋の先から線路はなく、鉄路分断は南の汶山まで十数キロである。日没近い時間であったが南の方から家路を急ぐ人たちの群れ、開城工業団地建設労働者たちだったのだろうか。

北側内閣府の配慮で夕食の招待も受けたが、玉流館での昼食の冷麺は暖房が切られ寒さに震えながらいただいた。熱いほどのオンドル房で一度賞味しなくてはならないと常々考えている。

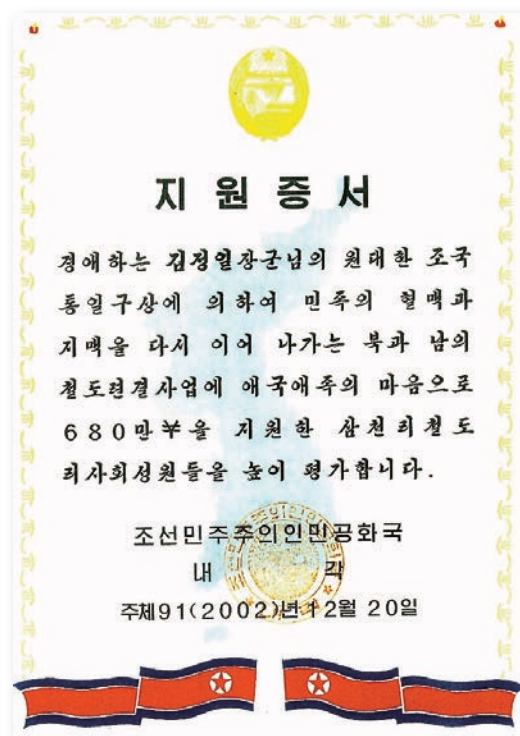
✧ 鉄道再連結工事

南北を結ぶ京義線の復旧工事は2002年9月着工され、2007年5月に試運転、その年12月には開城工業団地への定期貨物列車が運行されたが一年後には再び運行が中断され、その後中断が継続されている。

2007年5月の試運転は胸躍る気持ちでテレビの画像を見つめていた。非武装地帯のゲートが開き北へ向かう列車の姿は、多くの在日に平和と統一への夢と希望を抱かせた。それがわずか一年で中断するとは誰が想像しただろうか。それから12年もの時が経った。

観光などで都羅山まで行った方は多いだろう。北へ向かう場合はこの出入境事務所で検印をもらう必要があるが、あくまでもこの任務は"境"の通過証明である。"国境"でないことである。

韓国聯合ニュースによれば、韓国統一部の呂尚基報道官は東海北部線の建設記念式について対北朝鮮制裁に抵触するという指摘に対し"われわれ側の地域問題ゆえに、米国と協議する対象ではない"と明確に述べている。(東海北部線の建設に当たって三千里鐵道は枕木代金として2,000万ウォンの寄付をしました。)



朝鮮民主主義人民共和国内閣の支援証書

現在の状況に対しあえて批判すれば、鉄路が悲願の連結を果たしたのに列車が走らない事実は"政治的不作為"に外ならないと考えている。

✧ 汶山(ムンサン)から開城(ケソン)まで歩こう!

汶山(ムンサン)から開城(ケソン)まで一緒に進行しませんか。

朝鮮半島の平和と統一を願い、海外に居住するわれわれがその思いを伝える行動をする時期だと考えています。

この計画は、一部の在日の若者、本国の人士にも伝えています。

まだ具体的な計画には至ってはいませんが、コロナが終息すれば実行に移します。

参加を希望する方々は現地までの交通費を負担してください。現地滞在費はNPO三千里鐵道がすべて負担します。

汶山(ムンサン)から開城(ケソン)までは十数キロの距離です。85歳の老人も歩くと言っています。

南北の国籍に関係なく一緒に進行しませんか。この行進を妨害・阻止するものがあれば、その正体を見極めるだけで意味があります。

楽しみながら軍事境界線を、南から北へ、北から南へと越えましょう。

南北両首脳に送る書信

三千里鉄道顧問 康宗憲

尊敬する文在寅大統領、尊敬する金正恩國務委員長。2020年も残り少なくなりました。多事多難であったこの一年、両首脳は今もコロナウィルスの感染対策に全力を傾注されていることと思います。防疫を最優先せざるを得ない状況で、南北間の交流と往来は遮断されたままです。しかし、南北関係の停滞や後退は一時的なもので、遠からず私たちは再び手を取り合い、民族共助の日々を復元するものと確信します。

二年前、板門店と平壤での感動的な両首脳の出会いを、単なる過去事として歴史のページに閉じ込めることはできません。板門店宣言の署名に際し、金委員長は強調されました。「その間、南北当局は貴重な文書を少なからず採択しているが、重要なのは合意内容の履行だ」と。文大統領も同じ心境だと思います。しかし、板門店宣言と平壤宣言のうち、履行された合意項目を探すのは極めて困難です。とりわけ、①朝鮮戦争の終戦宣言と平和協定の締結、②段階的な相互軍縮の実現、③鉄道・道路の再連結と開城工業団地・金剛山観光事業の正常化は、南北海外の全朝鮮民族が歓迎してやまない合意事項です。なぜ履行されないのか、誰が妨害するのでしょうか？

両首脳がくり返し確認した「民族自主と民族自決の原則」に立脚するなら、米国をはじめとする周辺大国の干渉に左右されてはなりません。「いかなる同盟国も民族に勝るものではない」からです。従属的な韓米関係の桎梏は承知の上です。しかし、南北の首脳合意よりも韓米の軍事同盟を優先する限り、先述した①②③の合意事項は夢物語に終わります。朝鮮半島における米国の既得権は、現存の停戦体制と分断状況に起因しており、その維持が歴代米政府の目指す国益だからです。トランプ政権であれ、次期バイデン政権であれ、この点に関しては些かの差異もありません。

開城の南北連絡事務所で実務協議をしても、韓米ワーキンググループで承認されないと何一つ履行できない状況は、屈辱を超えて憤りを覚えるものでした。「民族自主と民族自決の原則」に乖離すること甚だしいからです。文大統領も忸怩たる思いだったのでしょう。「南北関係は朝米関係の従属変数ではない」との演説にその一端が窺えます。しかし大統領の発言は、南北関係の独自の優先的な改善努力と実践を通じてのみ説得力を持ちます。米政府の許可と承認を前提とし、国連制裁の枠内での南北関係にとどまるなら、金委員長を感化することも、現状を開くこともできません。

文大統領にとって最優先の課題は、韓米合同軍事演習の中止を宣言し総予算300兆ウォンもの軍備増強計画を見直すことです。北が最も強く反発する軍事行動を敢えて展開するのは、信頼を損なうだけでなく、相互軍縮の板門店合意にも反する行為です。大統領が今年の国連演説で強調した朝鮮戦争の終戦宣言が実現しても、韓米同盟を強化し合同軍事演習を継続するなら、実質的には停戦状況が維持されます。「政治的な終戦宣言」と「法的な停戦体制の継続」という矛盾は避けねばなりません。軍事同盟は須らく、共通の「敵」を前提とし圧倒的な軍事力で制圧することを目的とします。同族である北を敵視する韓米同盟は冷戦時代の遺物です。板門店宣言・平壤宣言を採択した現在および未来の民族的な利害において、否定的に作用するしかないでしょう。

一方、金委員長にとって文大統領に対する信頼は、他のいかなる国家元首との関係よりも貴重なはずです。板門店と平壤、そして白頭山とともに過ごした時間は、米中両首脳との親交とは次元の異なるものです。長きにわたる冷戦と分断の歳月で仕組まれた従属的な韓米関係を、文大統領の政権下で一気に克服せよと求めるのは無理です。段階的に実行するし

がなく、それも北の協力があってこそ可能でしょう。また、南には分断体制に寄生し南北関係の破綻を目論む勢力が厳存します。彼らは文大統領を攻撃することに躍起です。金委員長に必要なのは、南に対する太陽政策(包容政策)の展開ではないでしょうか。

金委員長が昨年の新年辞で表明された「開城工業団地と金剛山観光事業の無条件再開」は極めて重要な提案でした。諸般の事情で実現しませんでした。今は機が熟しつつあると思います。本来、これらの事業は民族内部の共同事業であり国連制裁の対象外でした。先ずは開城工団と金剛山事業の関連企業を招請し、再開に向けた南北実務協議を開始するのはいかがでしょうか。もちろん、コロナウィルスの感染が収束していない現状を無視できません。しかし平壤宣言には、「感染症の流入および拡散防止のための緊急措置をはじめ、防疫および保健・医療分野の協力を強化する」との合意項目があります。まさに今、この合意を履行する時ではないでしょうか。

思うに朝鮮民族にとって、コロナウィルスよりも脅威なのは「分断ウィルス」です。相手への不信と敵意を増幅させ、和解と協力への志向を抹殺するのが

「分断ウィルス」の症状です。これに対処するのは「統一ワクチン」の接種しかありません。ただ、この「統一ワクチン」は誰も提供してくれません。私たちが「民族自主と民族自決の原則」により共助することでしか産み出せないのです。金委員長が10月10日の演説で述べられた内容を私たちは記憶しています。「愛する南の同胞たちにも丁重に、心からのあいさつを伝えます。一日も早くコロナウィルス危機を克服し、北と南が再び手を取り合う日が来ることを願っています」。

両首脳に心より建議します。一時的な不信と対立を乗り越え、和解と協力に向け再び手を取り合うことを。そして次回の首脳会談をぜひ、開城工業団地で開催されることを。その場で、全同胞に連絡事務所の再建を約束し、全世界に向け開城工団と金剛山事業の再開を宣言されるなら、これ以上の民族的な慶事はありません。その日に向けて、私たち日同胞も準備します。

両首脳のご健勝を心より祈願して。

2020年12月12日





「三千里鐵道20周年に際して」

副理事長 姜春根

ある日突然1本の電話あり。都相太氏から。くすり屋をつぶし、1週間後に雇って下さって、三年間メシを食べさせて下さった恩人の社長であり、最初の二年間は名古屋からの往復高速料金を保証して下さった人であり、工作中突然呼び出され、何事かと駆けつけたところ『今から文益煥牧師が平壤に向けて、中国を出発すると電話があった!』とシレーっと告げる人でもあった。事実、私はオツタマゲタ。その後、平壤で金日成主席と抱き合うことになる前段の話。歴史が作られている中の私は傍観者であり、都氏はスポンサーであった。

その都氏が「6.15にちなんで、千里馬鉄道を作りたい」とお述べになられた。「エッ、千里馬?」あわてて都氏曰く「いや、三千里鐵道の名で、38度線の鐵道開通に助力したい」とのこと。私の頭の中がハジケテ、ウカウカと応諾の返事をしてしまったから、そう、あれから20年!!

南北に枕木としての寄附活動を展開して、南と北から領収証を頂くということも、「夢切符」というシロモノを発行し、ペテン師すれすれの荒事もこなし、都氏に至っては厳寒の平壤訪問も果たし、『NPO

法人三千里鐵道結成大会』には韓国より文益煥氏夫人・金槿泰氏その他著名な方々を招請し、名古屋公会堂に数多くの在日の人々・日本人の方々に来て頂き、大盛会の催しを実現させ得たことは、今でも思い出すと胸熱くなる出来事でした。

以後、毎年6.15記念集会を催し、元統一部長官経験者の林東源先生・丁世鉉先生の講演、自民党の

野中広務先生、開城公団に大きく関わられた金鎮香先生にもご来名頂き、それなりに20周年を迎えることになりました。

それもこれも、暖かく『NPO法人三千里鐵道』に物心両面で盛り立てて下さった、在日の人々、日本の人々のご支援のお陰であったことは言うまでもありません。

都相太理事長をはじめとする役員一同も、一休みすることなく、20周年行事、都氏80歳のソウル祝宴、京義線開通推進「南から38度線を越えて開城までの徒歩行進」など、各多の企画を持っています。

『和して同ぜず』という都理事長座右の銘と共に、力強く前進して行きましょう。

二〇年の航跡、次の一歩のための

磯貝治良

ふりかえってみれば、いつの間にか二〇年、という感じ。満83歳の私にとってそれは人生の4分の1弱に当たるが、そんな感じはしない。安保ホールでの発足準備会に参席した人の何人かの顔をいまは見なくなった。それで歳月の経過を思うくらいだ。

本号には「二〇年の活動」といった会録が載るだろうけど、じつに多彩・豊富な活動が展開されてきた。私の記憶に残るベスト5を順不同で記す。☆名古屋市公会堂大ホールで開催された結成集会で韓国から招いた錚々たる統一運動人士10人が舞台上に並んだシーン ☆京義線の南北連結工事代を丁世鉉統一部長官(当時)に手渡す伝達式に同席できたこと ☆三千里DMZツアーのときユギオ停戦協定が調印された屋舎の一室で見た、南北代表の間に引かれた一本の電話コード ☆都相太理事長が統一文化賞を受

賞、ハンギョレ新聞社での授賞式に出席したこと(同賞は詩人高銀氏、世界的音楽家尹伊桑氏、統一運動の象徴的存在朴容吉女史などが受賞) ☆林東源(元統一部長官)という「韓国的人格」に接し得たこと。

三千里鐵道二〇年の記憶の筐にはじつに沢山のあれこれが詰まっていて、数え切れない。私は文学活動と並走して社会運動(反社会運動かも)らしきことを行なってきた、ほぼ60年になる。そのなかでも三千里鐵道の活動は、後衛から見え隠れしながらついで行くばかりながら、屈指の一つと思っている。私史の中の一章なのだ。

60年におよぶ文学運動、大衆運動、市民運動は、その課題を組織ではなく個の主体において選択し、それに相応しいスタイルで参加してきた。なので、活動史は暮らしの一部、人生のパートナーみたいに



なっている。三千里鐵道の活動も、20年を経てそういうモノになりつつある。

「運動とは人である」。近頃、あらためて実感している。

朝鮮半島南北の和解と統一、東アジアの平和——それに向けて、組織方針ではなく、個々人の意思と情熱によって、根っこからの運動として、息長く継続している三千里鐵道という場合は、〈在日〉社会においても日本人との協働においても、他に類を見ないのでなかろうか。あえて、我が田に水を引いて言えば。三千里鐵道が在ること、その活動は、当事者が思っている以上にデッカいのかもしれない。

ところが、運動の基層、発生源は意外と小さい、六人の集いなのである。ことあるごと、必要あるごとに「三千里事務局会議」が開かれる。「事務局会議」と言うが、役員による執行会議である。都相太理事長、姜春根副理事長、同私、韓基徳事務局長、白康喜事務局次長、そして康宗憲顧問。志士六人が最高決定機関であり、企画のための雑務までこなす。

いずれ「三千里 人物列伝」なるものをモノしたいと思っているが、とりあえず一口アラカルトを試してみる。

都相太さん。理工系出身のエンジニアを自称するが、無類のロマンティストである。俗に言うそれではない。康宗憲さんいわく「統一事業は理事長の(壮大な)ロマンである」。詩的な人でもあるが、発想と行動はリアリズムである。三千里鐵道発足の呼びかけが、南北当分の鉄道連結工事基金の調達であった。事業の面でも創意を楽しむエコロジストでもある。在日の教育、文化その他に無償の支援を惜しまない、珍しい富者。三千里鐵道運動の資金的基盤を支えている。

康宗憲さん。三千里鐵道の活動のみでなく、朝鮮

半島情勢の分析と統一への提言において、他にかけがえのない人。語りの端正と情理の深さは、みずからの熾烈な体験に培われた世界観と倫理に由来するのだろうが、人性も反映しているにちがいない。康宗憲さんがテレビの討論番組か何かで30分喋ったら、凡百の識者、らは顔色を失うだろう。難題と思われる企画も、本国のしかるべき人士との太いパイプで実現させる。明晰な通訳ぶりは定評。「困ったときのカンチョンホン頼み」という言葉がある。

姜春根さん。青年期から古希の今日まで、韓国政府から「反国家団体」に指定される民族組織の中核で活動してきた。かつて高校弁論会で「東海に〇〇あり」と名を馳せた強者で、今もその雄弁は健在。ときに気宇壮大な企画を提案し、時に皮肉屋、毒舌家の顔をのぞかせるが、実は生来、ナイーブな人。1970年代日韓民衆連帯運動以来の知己。

韓基徳さん。高いポテンシャルの持ち主。1990年代初め、幼児を連れて語学留学して得た財産、を遺憾なく発揮して、公私にわたって韓国とワッタガッタ。運動圏の活動家に知人も多く、康宗憲さんとはまた別のパイプを活かす。計画力、実行力、フットワークいずれも秀でた実務派。遅れ遅れの企画も土壇場でアクロバティックにこなしてみせる。80年代指紋押捺拒否闘争以来の知己。私より二回り年下だが、二世世代の「在日の心」を学ばせてもらった。

白康喜さんは若き俊英活動家で、いささか古色然とした三千里事務局会議の風を入れ替える人。IT技術などを応用した実務能力と斬新な発想への期待が大きい。

20周年を言祝ぐつもりはないが、肩のこらない話を、と書いて書いているうちに楽屋ばなしみたいになってしまった。

私と豚と三千里鐵道

白康喜

私が民族運動(在日韓国青年同盟 ※韓青)と出会ったのは2000年の3月、22歳になる年でした。その3か月後に史上初の南北首脳会談が開催され、6.15南北共同宣言が出されたのですが、民族運動と出会ったばかりの私には、それがどれだけ大きな出来事であったのか、当時はよく分かりませんでした。ただ、周辺がこのことに興奮し、テレビで流れる映像など

では涙を流して喜ぶ同胞の姿があり、ただ事ではない瞬間が来たことだけは理解できました。三千里鐵道との出会いは、それから2~3年後くらいだったと記憶しております。「名古屋で集会があるから」という事で、当時、韓青のメンバーだった私は仲間と共に会場設営をお手伝いしたことを覚えています。それから約20年、つい先日まで私は三千里鐵道を「外側」



から見る立場で関わって来ましたので、三千里鐵道のメンバーとして語れるものはそんなに多くありませんが、参加してきた講演会では内容もさることながら、「統一」や「時代」を表す著名人を名古屋(時には豊橋)に招請していることにずっと驚かされていた、というのが私の印象です。

私の中に強烈に印象に残っていることが一つあります。私が韓青三重県本部の委員長をしている頃に、都相太理事長のお宅にご招待を頂いたことがあります。そこで理事長がこんなお話をされていました。「非武装地帯で、豚を飼いたい。」と。詳細を覚えているわけではないのですが、その発想とお話しの「絵面」が少し面白かったので、正直「ヘンテコな話」として捉えておりましたが、日が経つにつれて、この言葉にどんどん惹かれていきました。

私は今、自分の食べるもの(米や肉、野菜など)を自分で作り出すことはしていません。誰かが作った「それ」を、私が別の労働で獲得した金銭で買って食べています。しかし、「食べないと生きられない」のが人間の基本ですから、人間は他の誰かの力を借りながら、集団の中で、互いの労働を交換しあいながら「食べて」「生きていく」わけです。人間は大小問わず「社会」の中で生きており、又、その中の誰かを「生かしている」ものです。逆をかえせば、「社会」を作ることで人間はそこで「生きること」ができるし、他の誰かを

「生かすこと」ができると考えられます。理事長の「豚を飼いたい」というお話しから、私の中で勝手に解釈を変換して「社会を作れば(人が集まれば)、生きることができるじゃないか」「社会を作るのは、人間以外にないじゃないか」という部分にたどり着くことができたのです。

この流れで「統一」をどう表現するのかを突き詰めていくと、私の中では「分断の地を海外同胞が暮らす地に」することが海外同胞(というか私)にとっての「統一」なのではないかと考えるようになりました。長い青年運動の中で、具体的な「統一」を他人に表現することに苦心しながら活動をしてきましたが、もっとシンプルに「人が生きる」という部分を土台して「統一」を考えると分かりやすいんだ、ということをも自分のなかで積み上げることができたキッカケが、理事長の「豚」のお話しだったわけです。

昨年からは三千里鐵道に少しだけ深く関わることになりましたが、「三千里鐵道20年」は、私たち同胞はもちろん日本の方にも大きな意義をもつ20年だと思います。私はこの20年の歴史をどう表現し、どう継承するのか、まずはそこから始めていきたいと思えます。そして、一日も早くこの閉塞した状況が改善され、祖国の地を統一の唄を歌いながら歩き、私たちが「生きられる社会」をつくる場所を、「豚」が飼える場所を、探していきたいなど、そう願うばかりです。

結成二〇年…誇らしき三千里鐵道事務局長という『肩書』

韓基徳

2000年6月、インターネット掲示板《Hanboard》は、史上初の南北首脳会談と6.15共同宣言の話題で持ちきりだった。そんな中で下記のような投稿があった。

鐵道の連結に参与の提案

記事番号：2374(2000年06月20日 14時07分03秒)

投稿者：あすなる泰山木(属性：ケナリハラボジ)

以前、ある老先生が、南北の非武装地帯を在外同胞が買い取り、恒久的な平和地帯とし、環境保護のモデルとして残せないか、という「夢物語」を拝聴したことがあります。

6月15日の南北共同宣言後すぐに、南北鐵道の連結計画が発表されました。

京義線(ソウル・新義州)20km、京元線(ソウル・元山)31km、金剛山線72km、東海北部線132kmの4路線で合計、255kmです。

私は次のような提案をしたいと考えています。皆さんのご批判と、ご意見を是非お聞かせ下さい。

- 一、非武装地帯区間の鐵道建設費の一部を、在外同胞の寄付金で負担。
- 二、寄付行為は原則的に個人とし、既存組織の賛同と協力を得る。
- 三、運営及び管理も原則個人とする。
- 四、寄付金はすべて国連を経由して、在外同胞の寄付による建設を担保する。

(<http://www.han.org/oldboard/hanboard5/msg/2374.html>)



この投稿に対して、私はすぐにコメントを載せた。

すばらしい提案だと思います。祖国統一に対して、こういう参与の仕方があるのかと、目からうろこのような気持ちです。

その数日後に、投稿者の『あすなる泰山木』さんから電話があった。

電話口のその方は、『あすなる泰山木』と名乗ったのだが、私からすると、ネットの中でしか出会ってない人がなぜ私の電話番号を知っているのかと訝しく思うほかないわけで、そしたら、「都相太です。」と名乗られたのである。

都相太さん!!

私は一度しか会ったことがなかったけれど、どんな方であるかは、いろいろ聞いて知っていた。『あすなる泰山木』さんが、実は都相太さんだと知って、私は本当にうれしかった。

そして、近いうちに会って話をしましょうということになった。

そしてその場に、韓青(在日韓国青年同盟)の大先輩であり、当時、韓統連(在日韓国民主統一連合)愛知県本部の姜春根代表がいたのである。私は89年に韓青活動を引退したのち、他の同志とは異なり韓統連には参加しなかった。ゆえに、『背信者』の汚名を着ることになった。

当時の私には明確な目標があった。韓国語を習得するための韓国語学留学である。人生で一番大切なものは『仁義』であると答えるその私が、その目標のためには、韓統連に行かないという選択をしたのである。

私は、都相太さんと姜春根さんが待つ場所に入った瞬間、色を失った。

これが三千里鐵道の始まりである。

2000年6月当時、私は無職であった。それ以来、愛知韓国商工会議所事務局長、三愛福祉会事務局長、無職、コリア国際学園設立準備委員、そして現在の株式会社EACの代表と、職はいろいろ変わったけれど、

2000年当時は小学生だった息子が、大学院を卒業し、就職し、結婚し二児の父となり、私は、42歳の青年だったが、今や62歳のハルベエとなったけれど、

20年間ずっと、NPO法人三千里鐵道の事務局長の『肩書』とともにあった。

今、しみじみと20年間を思い起こすと、この『肩書』

がなんと誇らしい。

なにより、三千里鐵道の活動の中で、『背信者』の汚名を着ても韓国に留学し、ある程度の韓国語を習得したことが活かされた。

私の韓国留学は、『韓国人になるため』であった。韓国人の『印』が欲しかったからであった。韓国語を生かして何か仕事をするなんてことは考えてもいなかった。ところが、三千里鐵道の活動の中で、それが十二分に活かされたのである。

そして、その活動の中で、上にあげた韓統連の姜春根さんと和解したことは、私の人生にとって特筆すべきことである。

「山に登る道は幾筋もある。祖国統一のために、基徳が韓統連とは違う道を歩んできたことを認める。」このような言葉を聞いた時、永年の滓が解けたことを私は本当に喜んだ。

都相太理事長の座右の銘は、『和而不同』和して同ぜずであるが、三千里鐵道の活動を担ってきたメンバーは、まさに『和而不同』の関係にある。

当初より副理事長として参加された磯貝治良さんは、日本人として私たちの関係にはらはらしながら楽しんでこられたようである。

顧問として参加していただくことになった康宗憲さんからは実に多くのことを学ばせていただいた。想像を絶する苦難を乗り越えて生きてこられたその人格に近くで接することができるのは本当に光栄なことである。

そして若い後輩、白康喜さんの参加は、これから活動を継続していく上で何より心強い。

また、三千里鐵道の事務局長の『肩書』によって、私は実に多くの韓国内の友人を得たことも私の望外の喜びであった。

ここではいちいち名前を上げないが、三千里鐵道の活動を本当に支援していただいた。実は、私の会社の経営にもいろいろと支援をいただいたのである。

私は昨年来、民主平和統一諮問会議日本中部協議会の会長というもう一つの『肩書』を持つことになったが、これも三千里鐵道の事務局長をしてきたことが認められたが故である。

本来なら、都相太理事長が任ぜられべきものであるのに、なんと居心地が悪いのだが…